

# 文化遺産ニュース

*Cultural Heritage News*  
from NARA

Vol.

34

March 2022

◎ 集団研修	1
◎ 個別テーマ研修(インドネシア)	2
◎ 文化遺産ワークショップ(ミャンマー)	3
◎ 国際会議「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」	4
◎ 文化遺産セミナー「黒塚古墳と三角縁神獣鏡の世界」	5
◎ 世界遺産教室	6
世界遺産「バガン」	裏表紙

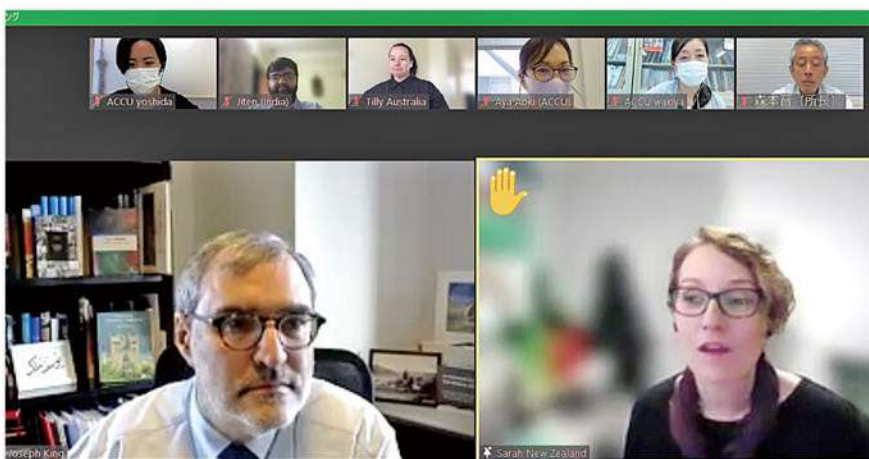


# 集団研修

2021年9月1日から30日まで、アジア太平洋地域8か国からの12名の研修生を対象に「考古遺跡の調査記録と保存活用」をテーマにオンラインで実施しました。



参加者の皆さん



オンラインでの講義

集団研修は、ACCUCU奈良事務所が行う人材養成の中核事業です。「木造建造物」と「考古遺跡」の2種類の研修テーマを、基本的には隔年で交互に実施して、昨年(2021年)は考古遺跡をテーマにしました。

12名の研修生は、政府機関や研究所などで、自国の文化財保護に携わる若者たち(平均年齢30代半ば)で、多くが発掘調査や遺物整理の現場で活躍中です。研修は今年も昨年に引き続きオンラインでの実施となりました。招へいして



講義の配信

おこなっていた時には、この研修は、実習と臨地研修に多くの時間を充てる特色がありました。それがかなわないので、少しでも意義のある研修にするための工夫を施しています。

動画教材の配信とリアルタイムの講義を組み合わせ、理解を深められるようにしました。また、ひとつひとつの動画は短めにして、小分けにした教材を順に学んでいけるようにテーマごとに順番に配信しています。元が日本語であった教材はネイティブスピーカーに英語で吹き替えてもらっています。

研修生が多くの国に分散しています。リアルタイム接続での討議を6回(各回約3時間)設定しました。実施には時差を考慮する必要があります。今回は、講師の先生がいるイタリアが最も西に

あり、最も東にあるニュージーランドの研修生との時差は、10時間もあります。

研修の共催機関であるイクロム(文化財保存修復研究国際センター)／本ローマ)の講師との討議は、1回目は各国からのレポートについての質疑応答と意見交換を行い、2回目は文化遺産の保護と活用について討議を行いました。また、日本国内の講師の先生と結んでの質疑応答を4回行うことで、ビデオ視聴だけでは分からない点についての理解を深められるようにしました。

## カリキュラム(概要)

### ■動画による講義

「文化財保護の世界の動向と国際憲章」「日本の文化財保護制度」「考古遺跡の調査法(型式・層位・年代、3Dの活用)」「考古遺物の記録と保管」「動物考古学」「考古生化学」「博物館収蔵品の保管環境」「文化遺産写真の基礎知識(画像フォーマット、考古遺跡の写真技法、基礎的な照明設定、立体物の撮影設定、立体物の撮影、平面物の撮影)」「日本における遺跡の整備活用」「世界文化遺産の遺産影響評価」「文化遺産の保存と活用(世界的動向)」

### ■リアルタイムセッション

研修生各国の「遺跡保存活用の実情と課題」についての報告と意見交換  
遺跡の調査と記録・遺物の調査と記録(計3回)  
「文化遺産の保存と活用」についての質疑応答と討議(計2回)

### ■参加国

オーストラリア・パングラデシュ・ブータン・カンボジア・インド・インドネシア・ニュージーランド・スリランカ

# 個別テーマ 研修

2021年10月8日から10月21日まで、インドネシアの8名の研修生に対し「文化財建造物の写真記録」をテーマにオンラインで実施しました。



オンラインによる講義

RAPID ASSESSMENT JALUR REMPAH DI PESISIR UTARA JAWA 2020 -- [pda] / DITEN KEBUDAYAAN

1-A. DATA UMUM DAN LOKASI

[1a] Nomor urut	JK3172B	[1b] No. Inv. Ditperbud	RNCB.20160528.02.000573
[1.1] Nama	Kompleks Menara Syahbandar	[1.5] Status CB	PM.13/PW.007/MKP/05 tanggal 25 April 2005
[1.2] Nama dahulu	De Uitikjoreen / Uitikjiposten	[1.6] Status Kepemilikan	Pemda DKI Jakarta
[1.3] Arsitek/Pembangun	Pemerintah Hindia Belanda	[1.7] Pengelola sekarang	UPF Museum Kebaharian Jakarta
[1.4] Tahun dibangun	1839	[1.8] Fungsi sekarang	Museum

Lokasi Menara Syahbandar. Google Maps (2020)

[1a1] Tampak timur menara syahbandar.

[1a2] Halaman menara syahbandar dan salah satu bangunan museum.

[1.8] Alamat	Jl. Pasar Ikan No.1	[1.9] Koordinat situs (UTM)	06°07'40" LS 106°48'31" BT
[a] Dusun/Kampung	RT11 RW04	[1.10] Batas-batas	
[b] Desa/Kelurahan	Kel. Penjarangan	(a) Batas Barat	Jl. Pasar Ikan
[c] Kecamatan	Penjarangan	(b) Batas Utara	Toko Sinar Samudra
		(c) Batas Timur	Kali Krukut

オンライン授業の様子

本年は建造物の写真撮影に関する研修を実施しました。個別テーマ研修の特徴は、参加者の要望に沿ったオーダーメイドのカリキュラム編成ができること、条件次第では英語以外の言語でも開催できることにありますので、オンラインでもその特質を損なわないように配慮しました。

文化財としての価値の高い建造物を登録する際に現状記録としての写真が必須となります。周辺の地物や屋外ゆえの光の当たり具合などの問題をいかに解決して、その建物の真の姿を伝えることができるかが、建造物写真の課題となります。



参加者の皆さん

講義資料の文章はインドネシア語に訳しました。講師は日本語で話をしますが、その内容をインドネシア語字幕として付けたものをビデオ配信しました。

質疑応答とデモンストレーションは、Zoomを活用し、インドネシア語で行いました。インドネシア語と日本語の間の通訳として、日本人とインドネシア人1名ずつを配するとともに、現地の文化財に詳しくインドネシア語にも堪能なコーディネーターも加わって、研修生と講師をつなぎました。

研修生からの質問に対して双方向討議の中で回答していくことが可能となりました。インドネシアでは新しい世界遺産の登録に向けて各地の文化財インベントリーを作成中です。実際に担当者が

撮った写真を見ながら講師がアドバイスし、実演を交えて適切な記録手法を伝えました。

## 研修生からのメッセージ

研修を終えて研修生の皆さんからは様々な意見・感想をいただきました。一部を紹介します。

- 文化財建造物の記録や登録に対して、どんな写真が標準なのかを決める上で非常に役に立った。
- 写真撮影が、遺産の意義と価値を伝えるうえで、必要不可欠であることに気づかされた。
- 講師が付き添っての実習がない研修は初心者の受講生にとって難しく感じる。

## カリキュラム(概要)

### ■オリエンテーション

文化遺産紹介  
「世界遺産・古都奈良の文化財」「世界遺産・法隆寺地域の仏教建造物」

### ■動画による講義

- 文化財インベントリーにおける文化財写真・建築遺産における写真の役割
- 文化財写真の撮影技法

- 文化財写真の基礎知識「メカニズムとカメラの種類」「カメラに映像が捉えられる仕組み」「イメージフォーマット」「カメラの三要素」
- 文化財写真のカラセッティング「ヒストグラムについて」「考古遺跡における写真撮影技法」「データ保存について」
- 文化財建造物撮影におけるカメラ設定と撮影セッティング

### ■リアルタイムセッション

- 「文化財インベントリーにおける文化財写真」
- 「文化財建造物撮影におけるカメラ設定と撮影セッティング」
- 総合討議・質疑応答

### ■課題提出

参加者レポート提出

# 文化遺産 ワークショップ

2021年11月10日から12日まで、  
ミャンマーを対象にオンラインで  
実施しました。



参加者の皆さん

この研修は、ミャンマー考古・国立博物館局の職員を対象としたもので、15名の方々が参加しました。

ACCU奈良事務所が、海外の現地で行うワークショップ事業を始めたのは2007年のこと。ミャンマーを対象とするのは初めてです。今回は、「考古遺物の写真記録」をテーマとしています。

現地に行つて実施することができないワークショップというのは昨年に続き二度目です。リモートなので講義・実演のビデオを視聴してもらうことが中心となつてしまいます。そこで少しでも理解してもらいやすくするため、事前の準備を丁寧に行うことにしました。

ビデオには、ミャンマー語の字幕を付け、資料はミャンマー語訳しています。ビデオ教材はオンライン上で専用ソフトを



写真撮影法に関するオンライン実習(奈良文化財研究所)

用いて配信しました。研修生は、ミャンマー国内の5か所(ネピドー、ヤンゴン、バガン、ビイ、ミャウー)からアクセスしました。

ビデオ教材では、講義だけでは分かりにくい点について、実演しながら説明をしています。また、12日には双方向同時接続を活用して、撮影手法を実際に見せながら重要な点を説明し、質疑応答も行いました。講師の中村一郎さん(奈良文化財研究所)に研究所の写真スタジオからインターネットに接続していただき、ミャンマー語の同時通訳を日本側とミャンマー側にひとりずつ配して説明に遺漏がないように留意しました。

撮影対象物の全体にピントが合うように、絞りを絞り込む必要があるものの、あまり絞り込むと画像の解像度が



写真撮影法に関するオンライン実習(奈良文化財研究所)

悪くなります。このため、絞りは中間値あたりを用い、シャッタースピードで調整する文化財撮影のポイントを学びました。

また、適正なライティングのために必要な工夫をさまざまなケースについて示していただきました。



写真撮影法に関するオンライン実習(奈良文化財研究所)

## カリキュラム

### ■オンライン講義

「文化財撮影の基礎知識」「デジタルカメラの基礎知識」「カメラの設定と操作」「カメラセッティングによる正確なJPG画像の取得」

### ■オンライン実演

「撮影セットの基礎とセッティング」「ライティングの工夫」「平面物の撮影」「立体物の撮影」「大型平面文化財のライティングと撮影」

### ■質疑応答(オンライン)

# 国際会議

2021年12月10日から15日、文化遺産保護に携わるアジア太平洋地域6か国およびイクロムの実務担当者をオンラインで結んで、「アジア太平洋地域における文化財防災の現状と課題」をテーマに意見を交わしました。



基調講演



総合討議

A C C U奈良事務所では本年から3カ年の計画で文化財防災について各国の担当者との意見交換を行う予定です。初年度の今年度は「災害時応急対応事例と課題」をテーマとしました。文化庁、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターとの共催です。

アジア太平洋地域では毎年発生する自然災害から文化財をどのように守るかが課題となつていきます。地震や台風などの自然現象そのものを制御することは不可能でも被害を軽減することは可能です。

12月10日から関係者に資料を配信し、14日と15日は奈良市の会場と各国をリアルタイムで結んで、基調講演、事例報告、討論を行いました。

14日は、はじめに文化財防災センター



会場の様子

の高妻洋成さんに「日本における文化財防災の取り組みと課題」と題して基調講演をいただきました。次いで、日本、インドネシア、中国、フィジー、ネパール、フィリピンの事例報告をそれぞれの国の方に発表していただきました。

二日目の15日は、イクロムのアパルナ・タンドンさんに「有形・無形文化財の災害リスクマネージメント」と題して基調講演をしていただき、続いて参加者全員で「アジア太平洋地域における災害時文化財救援における課題」について総合討議を行いました。

緊急時対応においては、被災文化財の救出などでも地域住民の理解と協力が大切です。また平常時における訓練や資料整備の重要性も再認識されました。各国での事例を学ぶことで、それぞれの

国の体制がさらに整備されることも期待でき、また国際協力の道も開けることでしょう。

今回は、オブザーバーとして日本国内からの71名に加え、海外9か国から43名もの参加をいただきました。会場参加以外にオンライン参加が可能であったことで、多くの方に加わっていただくことができました。



会場の機材とスタッフ

## 参加者の皆さん

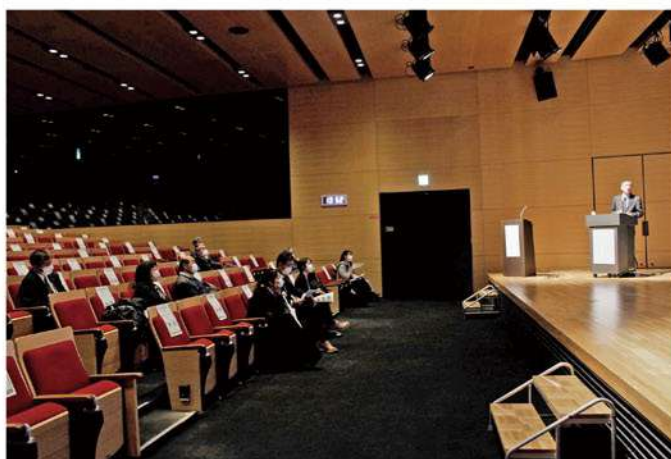
ハリ・セティアワン（インドネシア）  
寇杯云（コウ・ファイン）（中国）  
メラリア・ティコイトガ（フィジー）  
スレッシュユ・スラス・シエレスト（ネパール）  
マイリン・ロンダール（フィリピン）  
アパルナ・タンドン（イクロム）  
高妻洋成（文化財防災センター）  
永井康雄（山形大学）  
奥村弘（神戸大学）

# 文化遺産 セミナー

「黒塚古墳と三角縁神獸鏡の世界  
～黒塚古墳展示館開館20年～」  
をテーマに天理市教育委員会と共  
催で開催しました。



森下章司さんの講演の様子



関係者のみで無観客のセミナー会場の様子

ACCU奈良事務所は、2022年3月21日に天理市に開村する「なら歴史芸術文化村」へ移転します。このため開村の協賛イベントとして講演会を企画しました。

天理市には非常にたくさんのお古墳があり、その中には極めて大型のものを含む、多数の前方後円墳があります。そのひとつ黒塚古墳は古式に属する前方後円墳で、発掘調査によって竪穴式石室の中から33面もの三角縁神獸鏡が出土し、国の史跡に指定されています。

1月23日に、奈良公園バスターミナルレクチャーホールで、大手前大学の森下章司さんに「黒塚古墳と三角縁神獸鏡の世界」と題して講演をしていただきました。講演は新型コロナウイルスの感染

拡大のため無観客で行い、事前に申し込みのあった200名余の方に後日ビデオ配信しました。

開館20年を迎える黒塚古墳展示館では、竪穴式石室のレプリカ展示で発掘調査時の状況を再現しています。三角縁神獸鏡が遺体の上半部を囲むように、鏡面を遺体の方に向けて並べられていました。これは魔除けのためだと考えられています。

三角縁神獸鏡は邪馬台国の女王、卑弥呼が入手した「銅鏡百枚」に当たるといふ説があり、中国で作られたと考える研究者が多くいます。一方、日本製とする説を支持する人もあります。製作地論争について、特に類似点のある中国の徐州系の鏡との関わりなど、最近の学説

も合わせて詳しく説明していただきました。

三角縁神獸鏡の神像や獣の像の配置と細部の形、あるいは紐の孔などについての新しい研究成果についても紹介いただきました。

黒塚古墳から出土した三角縁神獸鏡は、古いタイプに限られるため、黒塚古墳の年代も古く考えられています。これにより、古墳が出現した年代は3世紀の中頃に近いとされています。初期の古墳の年代が卑弥呼の年代とごく近いと知って驚きました。

講演によって、黒塚古墳とそこから出土した三角縁神獸鏡は極めて重要であることと、まだまだ謎が多いことを再認識することができました。

ACCU奈良・天理市教育委員会共催 「なら歴史芸術文化村」開村協賛イベント

文化遺産セミナー 「黒塚古墳と三角縁神獸鏡の世界」

黒塚古墳展示館開館20年

---

開催日時

2022 | 1 | 23 | Sun

13:00~15:00 (開場12:30)

会場 奈良公園バスターミナル  
レクチャーホール  
奈良県奈良市登大路町 76

講演者 大手前大学総合文化学部  
教授 森下章司 氏

定員 100名程度

入場 無料

共催 (公財)ユネスコアジア文化センター-文化遺産保護協力事務局(ACCU奈良) 天理市教育委員会 後援 奈良県、天理市

表紙:「黒塚古墳三角縁神獸鏡(6号鏡)実測図」(奈良県立歴史考古学研究所提供)

セミナー開催案内のチラシ



世界遺産「ルアン・パバンの町」(ラオス)にあるワット・タートルアン

# 世界遺産 教室

高校生286名が受講しました。



法隆寺国際高校(久保美智代さん)

奈良県内の高校生を対象に、世界遺産研究家が出前講義を行い、世界遺産に関する知識を深め、文化遺産保護の大切さを理解してもらおう機会を提供することを目的に世界遺産教室を開催しています。

奈良県は数多くの文化遺産に恵まれ、世界遺産も国内最多の3つあります。奈良県の歴史と文化について学ぶだけでなく、世界に視野を広げて世界遺産条約の意義、世界遺産の現状と課題について学ぼうという教室です。国内外の世界遺産の紹介や、クイズ形式の時間もあり、楽しく学習することができますように工夫していただいています。例年、県内10校程度の高校で開催してきました。今年度も、新型コロナウイルスの感染



高取国際高校(鶴見泰寿さん)

拡大のため、開催希望校が大幅に減少し、3校(計4回)となってしまいました。さらに1回はオンラインでの講義となりました。対面ではありませんので、臨場感を保つのが難しいですが、双方のやり取りを交えてお話いただきました。また、オンラインの強みを活かして複数の教室とつなぐことで二度に200名を超える生徒に話を届けることができました。

講師は3回が長年、世界遺産教室の講師を務めて頂いています、フリーアナウンサーの久保美智代さんです。高校生の皆さんは、新型コロナウイルスの影響で、様々な行事に影響が出ている中、世界各地の世界遺産を現地でも撮影した美しい映像を見て、講師の熱い語りを、終



世界遺産「歴史的城塞都市カルカソンヌ」(フランス)

始熱心に受講していました。

また、1回は選択授業で飛鳥について学んでいる生徒を対象として「フカボリ」授業となり、奈良県立橿原考古学研究所の鶴見泰寿さんが世界遺産候補地である飛鳥京での発掘調査について話していただきました。実際の調査手順なども詳しく聞くことができ、興味が湧いたようです。

ちなみにこのページの世界遺産の写真は参考資料で世界遺産教室の内容と直接の関係はありません。

## 開催校

(奈良県立) 高取国際高校・法隆寺国際高校・五條高校

## 世界遺産「バガン」



表紙の写真：バガンの王宮跡発掘区

ミャンマーには2つの世界遺産があります。2014年登録の「ピューの古代都市群」と2019年登録の「バガン」です。ここでは、バガンを紹介しましょう。

バガンはミャンマー中部、エーヤワディー河の屈曲部に位置する11世紀から13世紀を中心とする遺跡群で、3000基を超えるといわれる仏塔（パゴタ）が林立しています。乾燥地帯なので木々が少ないなか、広範囲に塔が多数築かれている景観はとても印象的です。

仏塔や寺院の中には、今も多くの参拝者が訪れる「生きた遺跡」もあり、建物や仏像が飾

られて金色に輝き、門前には商店が並んで賑わっています。乾季には晴天が続くこの地では、金色の仏塔が青空によく映えています。

仏塔のほとんどはレンガ造りですが、外側を漆喰彫刻で飾る例や、室内に仏像等の壁画を描いている例もあります。ひとつひとつの図像はたいへん精緻で、興味深いものとなっています。

バガンには、王宮跡と考えられている場所があり、発掘調査によって巨大な柱穴などが見つかりました。調査区の一部は露出展示されていて、間近に見学することが可能です。



上左：バガンの眺望 上右：マヌーハ寺院の仏像 下左：シュエジゴン・パゴタ 下右：スラムニ寺院の漆喰彫刻

## 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO



〒632-0032 奈良県天理市杣之内町437-3  
(なら歴史芸術文化村 文化財修復・展示棟2階)

TEL 0743-69-5010  
FAX 0743-69-5021  
URL <https://www.nara.accu.or.jp/>  
E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

## 交通アクセス

近鉄・JR天理駅から ●バス1番のりばから「桜井駅北口行き」で  
勾田(まがた)下車、徒歩東へ15分